

# 磐田市立総合病院 臨床研修プログラム

令和3年度

磐田市立総合病院

〒438-8550 磐田市大久保512-3

TEL 0538(38)5000

FAX 0538(38)5050

## 目次

1	名 称	3
2	プログラムの目的と特徴	3
3	プログラム責任者と施設の概要	
	(1)プログラム責任者	3
	(2)施設の概要	3
	(3)指導医リスト	5
4	プログラムの管理運営体制	9
5	定 員	10
6	研修医の募集方法	10
7	教育課程	
	(1)研修の実施要領	10
	(2)研修内容と到達目標	11
	(3)教育に関する行事	12
	(4)指導体制	14
8	研修医の評価	14
9	研修プログラム、指導医の評価	15
10	プログラム修了の認定及び証書の交付	15
11	プログラム修了後の進路	15
12	研修医の身分	17
13	研修医の応募手続	18
別紙1	研修管理委員会	19
別紙2	各科カンファレンス	20

## 磐田市立総合病院臨床研修プログラム

### 1 名称

磐田市立総合病院臨床研修プログラム（以下「プログラム」という。）

### 2 プログラムの目的と特徴

#### (1) 目的

プログラムは、医師免許取得後の2年間を対象とし、将来、医師として成長するに当たり、1) 患者を全人的に診るための基本的診療能力を身に付け、2) 高度専門医療に対する学術的興味を持ち、3) 地域医療の重要性を体得するとともに、4) 医の倫理に基づく社会的良識を持ち、5) 患者や家族から信頼される医師となることを目的とする。

#### (2) 特徴

ア 2年間を通じてローテーション方式とする。内科、外科、小児科、精神科、救急、地域医療を必修科目としている。また、一般外来での研修を含める。

イ 5月間を選択として、すべての専門科から自由に選びローテーション研修期間にあてることができる。

ウ 協力型臨床研修病院は、浜松医科大学附属病院、菊川市立総合病院及び精神科（3病院）とする。

エ 臨床研修協力施設は、公立森町病院、森町家庭医療クリニック、菊川市家庭医療センター、御前崎市家庭医療センターとする。

なお、地域医療研修の一環として、森町家庭医療クリニック、菊川市家庭医療センター、御前崎市家庭医療センターで研修を行う。また、公立森町病院、森町家庭医療クリニック、菊川市家庭医療センターでは在宅医療を学ぶことができる。

オ 海外の指導医師の招へいや短期海外派遣研修を平成20年度から実施している。

### 3 プログラム責任者と施設の概要

#### (1) プログラム責任者

寺田 雅彦

#### (2) 施設の概要

ア 磐田市立総合病院は、平成10年に磐田市北部に移転新築され、診療科21科、病床500床に整備された。診療圏は、約17万人であり、磐南地域の中核病院の役割を果たしている。移転新築後は、今まで以上に患者の療養環境に配慮し、また、現在の高度医療水準を充たす最新の診断・治療機器を整備した。更に疾病の早期発見・予防のための健診センターを併設し、集中治療病棟、周産期医療、リハビリ部門、救急室の新設・拡充に加え、地域医師会とのコミュニケーションのための会議室を新設し、看護師をはじめとする医療スタッフの研修の場を充実した。全職員が「医療の原点は思いやり」をモットーとして、地域の人々に信頼され、愛される病院を目指している。また、平成12年度に臨床研修指定病院に認定された。

【病床数】 一般病床 498 床、感染病床 2 床

【診療科目】

内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、リウマチ科、腎臓内科、血液内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、血管外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、緩和医療科、病理診断科、糖尿病・内分泌内科、乳腺外科、臨床検査科、小児外科、肝臓内科の 34 科

【病院機能評価】

財団法人日本医療機能評価機構の認定病院

(平成 15 年 12 月 15 日 認定、平成 21 年 1 月 19 日 更新)

#### イ 協力型臨床研修病院

施設の名称	研修科目(期間)	所在地	電話番号
浜松医科大学病院	内科(1月) リハビリテーション科(1月)	〒431-3192 浜松市東区半田山一丁目 20-1	0538-435-2865
菊川市立総合病院	精神科(1月)	〒439-0022 菊川市東横地 1 6 3 2	0537-35-2135
福田西病院	精神科(1月)	〒437-0216 福田町一色 2 2	0538-58-1175
服部病院	精神科(1月)	〒438-0026 磐田市西貝塚 3781-2	0538-32-7121
磐田原病院	精神科(1月)	〒438-0002 磐田市大久保 42-15	0538-38-0621

#### ウ 臨床研修協力施設

施設の名称	研修科目(期間)	所在地	電話番号
公立森町病院	地域医療(1月) 内科(1月)	〒437-0214 周智郡森町草ヶ谷 391-1	0538-85-2181
森町家庭医療クリニック	地域医療(1月)	〒437-0214 周智郡森町草ヶ谷 387-1	0538-85-1340
菊川市家庭医療センター	地域医療(1月)	〒437-1507 菊川市赤土 1055-1	0537-73-2267
御前崎市家庭医療センター	地域医療(1月)	〒437-1622 御前崎市白羽 3521-10	0548-23-3211

## (3) 指導医リスト

診療科 (担当分野)	指導責任者 (氏名)	所 属	職 名	臨床 経験 年数
内 科	寺田 雅彦	磐田市立総合病院	副病院長兼教育担当部長	38年
内 科	古谷 隆一	磐田市立総合病院	副病院長兼腎センター長	37年
内科 (神経内科)	藤本 正也	磐田市立総合病院	副部長兼認知症疾患医療センター長	34年
内科 (呼吸器内科)	妹川 史朗	磐田市立総合病院	第1医療部長兼呼吸器内科部長	33年
内科 (呼吸器内科)	佐藤 潤	磐田市立総合病院	呼吸器内科部長	29年
内科 (呼吸器内科)	右藤 智啓	磐田市立総合病院	科 長	21年
内科 (消化器内科)	笹田 雄三	磐田市立総合病院	肝臓内科部長兼肝臓疾患センター長兼検診センター長	32年
内科 (消化器内科)	山田 貴教	磐田市立総合病院	消化器内科部長兼消化器内視鏡室長兼教育研修室副室長	22年
内科 (消化器内科)	西野 眞史	磐田市立総合病院	科 長	21年
内科 (循環器内科)	松永 正紀	磐田市立総合病院	循環器内科部長	28年
小児科	遠藤 彰	磐田市立総合病院	副病院長兼小児科部長	37年
小児科	白井 眞美	磐田市立総合病院	副部長兼周産期母子医療副センター長	33年
小児科	平野 恵子	磐田市立総合病院	科 長	22年
小児科	大高幸之助	磐田市立総合病院	科 長	16年
小児科	中村 雅博	磐田市立総合病院	科 長	14年
外科 (消化器外科)	鈴木 昌八	磐田市立総合病院	病 院 長	40年
外科 (消化器外科)	坂口 孝宣	磐田市立総合病院	副病院長兼第2医療部長兼消化器外科部長	32年
外科 (消化器外科)	松本 圭五	磐田市立総合病院	消化器外科部長	30年
外科 (消化器外科)	深澤 貴子	磐田市立総合病院	科 長	26年
外科 (消化器外科)	宇野 彰晋	磐田市立総合病院	科 長	24年
外科 (消化器外科)	神藤 修	磐田市立総合病院	科 長	24年
外科 (消化器外科)	川端 俊貴	磐田市立総合病院	科 長	22年
外科 (血管外科)	斉藤 貴明	磐田市立総合病院	科 長	18年
形成外科	谷口佳代子	磐田市立総合病院	形成外科部長	13年
整形外科	山崎 薫	磐田市立総合病院	副病院長兼整形外科部長	39年
整形外科	猿川潤一郎	磐田市立総合病院	整形外科部長	20年
脳神経外科	田ノ井千春	磐田市立総合病院	副病院長兼救命救急センター副センター長	39年
脳神経外科	天野 慎士	磐田市立総合病院	脳神経外科部長	22年
脳神経外科	山本祐太郎	磐田市立総合病院	医 長	11年
泌尿器科	水野 卓爾	磐田市立総合病院	泌尿器科部長	31年
産婦人科	徳永 直樹	磐田市立総合病院	副部長兼産婦人科部長兼周産期母子医療センター長	35年

耳鼻咽喉科	大嶋 吾郎	磐田市立総合病院	耳鼻咽喉科部長	24年
耳鼻咽喉科	泉 智沙子	磐田市立総合病院	科 長	18年
放射線診断科	杳掛 康道	磐田市立総合病院	放射線診断科部長	36年
放射線診断科	大川 賀久	磐田市立総合病院	放射線診断科部長	32年
放射線治療科	今井美智子	磐田市立総合病院	放射線治療科部長兼放射線治療センター長	29年
麻酔科	高橋 浩	磐田市立総合病院	副病院長兼第3医療部長兼麻酔科部長	39年
麻酔科	山口 昌一	磐田市立総合病院	麻酔科部長	24年
病理診断科	谷岡 書彦	磐田市立総合病院	副病院長兼病理診断科部長	38年
病理診断科	鈴木 潮人	磐田市立総合病院	病理診断科部長	24年
救急科	間遠 文貴	磐田市立総合病院	救急科部長兼救命救急センター長	27年
緩和医療科	中澤 秀雄	磐田市立総合病院	緩和医療科部長	31年
内科（腎臓内科）	深澤 洋敬	磐田市立総合病院	腎臓内科部長	27年
内科（血液内科）	藤澤 紳哉	磐田市立総合病院	血液内科部長	28年
内科（血液内科）	深津 有佑	磐田市立総合病院	科 長	15年
放射線科	中村 和正	浜松医科大学医学部附属病院	卒後教育センター長、放射線腫瘍学教授	31年
内科	宮嶋 裕明	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科講座教授	38年
内科	杉本 健	浜松医科大学医学部附属病院	内科学第一講座准教授	26年
内科	安田日出夫	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科講師	24年
内科	大澤 恵	浜松医科大学医学部附属病院	光学医療診療部講師	26年
内科	山下 美保	浜松医科大学医学部附属病院	国際化推進センター講師	21年
内科	大橋 温	浜松医科大学医学部附属病院	卒後教育センター特任講師	23年
内科	濱屋 寧	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科助教	20年
内科	山出美穂子	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科助教	18年
内科	藤倉 知行	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科助教	18年
内科	細井 泰志	浜松医科大学医学部附属病院	内科学第一講座助教	15年
内科	谷 伸也	浜松医科大学医学部附属病院	内科学第一講座助教	15年
内科	佐藤 太一	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科診療助教	11年
内科	磯部 伸介	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科診療助教	4年
内科	鈴木 聡	浜松医科大学医学部附属病院	光学医療診療部診療助教	14年
内科	須田 隆文	浜松医科大学医学部附属病院	内科学第二講座教授	33年
内科	中村祐太郎	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科講師	26年
内科	佐々木茂和	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科講師	32年
内科	榎本 紀之	浜松医科大学医学部附属病院	保健管理センター講師	22年
内科	柄山 正人	浜松医科大学医学部附属病院	化学療法部講師	17年
内科	鈴木 勇三	浜松医科大学医学部附属病院	内科学第二助教	17年
内科	則武 秀尚	浜松医科大学医学部附属病院	内科学第二助教	16年

内科	松下 明生	浜松医科大学医学部附属病院	内科学第二助教	26年
内科	藤澤 朋幸	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科助教	22年
内科	川田 一仁	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科助教	20年
内科	穂積 宏尚	浜松医科大学医学部附属病院	内科学第二特任助教	17年
内科	釣谷 大輔	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科診療助教	20年
内科	柿沢 圭亮	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科診療助教	12年
内科	伊藤 潤	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科診療助教	11年
内科	前川裕一郎	浜松医科大学医学部附属病院	内科学第三教授	25年
内科	小川 法良	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科講師	34年
内科	小野 孝明	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科講師	22年
内科	大谷 速人	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科特任講師	20年
内科	大場 健司	浜松医科大学医学部附属病院	医学教育推進センター特任講師	18年
内科	漆田 毅	浜松医科大学医学部附属病院	内科学第三助教	28年
内科	成瀬代士久	浜松医科大学医学部附属病院	内科学第三助教	16年
内科	永田 泰之	浜松医科大学医学部附属病院	内科学第三助教	16年
内科	早乙女雅夫	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科助教	24年
内科	下山久美子	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科助教	19年
内科	佐野 誠	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科特任助教	14年
内科	諏訪賢一郎	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科特任助教	15年
内科	茂木 聡	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科診療助教	14年
内科	竹村 兼成	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科診療助教	13年
内科	成味 太郎	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科診療助教	11年
内科	堀井 俊伸	浜松医科大学医学部附属病院	細菌・免疫学教授	24年
内科	尾内 康臣	浜松医科大学医学部附属病院	生体機能イメージング 教授	31年
内科	武内 智康	浜松医科大学医学部附属病院	生体機能イメージング 特任助教	9年
内科	岩倉 考政	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科医員	14年
内科	杉浦 喜一	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科医員	7年
内科	若月 里江	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科医員	5年
内科	江間 智映実	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科医員	7年
内科	尾上 峻也	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科医員	8年
内科	中上 大輔	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科医員（専攻医）	2年
内科	藤田 翔也	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科医員（専攻医）	2年
内科	岡崎 空弥	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科医員（専攻医）	2年
内科	村松 孝彦	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科医員（専攻医）	2年
内科	及川 亮	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科医員（専攻医）	1年
内科	佐藤 大輝	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科医員（専攻医）	2年

内科	河野 達啓	浜松医科大学医学部附属病院	第一内科医員（専攻医）	2年
内科	下山 真	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科医員	12年
内科	太田 和義	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科医員	11年
内科	高鳥 真吾	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科医員	10年
内科	田中 和樹	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科医員	10年
内科	黒田 豪	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科医員	10年
内科	神谷 陽輔	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科医員	10年
内科	櫻井 章吾	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科医員	10年
内科	岡 文音	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科医員（専攻医）	4年
内科	竹内 悠	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科医員（専攻医）	2年
内科	伊藤 大恵	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科医員（専攻医）	2年
内科	白鳥晃太郎	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科医員（専攻医）	2年
内科	山下 遼真	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科医員（専攻医）	2年
内科	遠山柚希乃	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科医員（専攻医）	1年
内科	岸本 叡	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科医員（専攻医）	2年
内科	鈴木 浩介	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科医員（専攻医）	2年
内科	中村 隆一	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科医員（専攻医）	2年
内科	井口 太郎	浜松医科大学医学部附属病院	第二内科医員（専攻医）	2年
内科	佐藤 亮太	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員	11年
内科	榊原 智晶	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員	10年
内科	安達 美和	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員	10年
内科	金子裕太郎	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員	7年
内科	古川 省悟	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員	5年
内科	秋田敬太郎	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員	9年
内科	道丹 哲志	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員	5年
内科	坂本 奈美	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員	7年
内科	山崎 賢士	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員	8年
内科	田村 卓己	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員（専攻医）	2年
内科	中川 翔太	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員（専攻医）	1年
内科	畠山 真和	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員（専攻医）	1年
内科	中村美紀子	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員（専攻医）	2年
内科	小谷内克弥	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員（専攻医）	3年
内科	大久保悠介	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員（専攻医）	3年
内科	中村 尚紀	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員（専攻医）	3年
内科	鎌倉 理充	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員（専攻医）	2年
内科	平田 博也	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員（専攻医）	2年

内科	米澤 春花	浜松医科大学医学部附属病院	第三内科医員（専攻医）	2年
リハビリテーション科	山内 克哉	浜松医科大学医学部附属病院	リハビリテーション部准教授	25年
リハビリテーション科	永房 鉄之	浜松医科大学医学部附属病院	リハビリテーション部助教	22年
リハビリテーション科	渡邊 浩司	浜松医科大学医学部附属病院	周産期等生活機能支援学特任助教	10年
リハビリテーション科	有賀 隆裕	浜松医科大学医学部附属病院	リハビリテーション科診療助教	7年
精神科	内田勝 久	菊川市立総合病院	医 長	37年
精神科	岩田 泰秀	福田西病院	副病院長	29年
精神科	山名 純一	服部病院	病 院 長	35年
精神科	辛島 敬士	磐田原病院	病院長	26年
地域医療	中村 昌樹	公立森町病院	院 長	36年
地域医療・内科	岩本 達治	公立森町病院	医 長	29年
地域医療	鳴本敬一郎	森町家庭医療クリニック	所 長	9年
地域医療	堀江 典克	森町家庭医療クリニック	医 師	22年
地域医療	松田 真和	菊川市家庭医療センター	指導医	8年
地域医療	吉野 弘	御前崎市家庭医療センター	所 長	22年
地域医療	金子 惇	御前崎市家庭医療センター	地域医療学特任助教	22年
地域医療	井上真智子	御前崎市家庭医療センター	地域医療学講座特任教授	23年

#### 4 プログラムの管理運営体制

- (1) 磐田市立総合病院、協力型臨床研修病院及び臨床研修協力施設は、臨床研修管理委員会を設置し、研修プログラムの管理運営について委任する。
- (2) 臨床研修管理委員会の委員長は、磐田市立総合病院から選出する。
- (3) 臨床研修管理委員会は、1～2ヶ月に1回開催し、研修プログラムの評価を行い、これに基づき当年度及び次年度のプログラムの計画、立案及び修正を行う。
- (4) 研修プログラムの管理運営については主として磐田市立総合病院の責任の下に行う。
- (5) 磐田市立総合病院はプログラム責任者を、協力型臨床研修病院及び臨床研修協力施設は、研修実施責任者を各々置くものとする。
- (6) 研修管理委員会の組織図は別紙のとおり。

#### 5 定員13人

#### 6 研修医の募集方法 公募（マッチング利用）

#### 7 教育課程

##### (1) 研修の実施要領

ア 研修は、合理的、計画的、かつ、総合的に実施されるよう臨床研修管理委員会において計画する。

イ 研修医は、配属された各科の責任において、指導医のもとに各科プログラムに基づき研修する。

ウ 研修期間は、2年間とする。

2年間で内科、救急部門、地域医療、外科、麻酔科、小児科、産婦人科及び精神科研修を受け、救急当直に関しては副直として当直医から指導を受ける。

### 【研修例】

1年次

※**太字**は必修科目。

2年次

※**太字**は必修科目。

※救急の当直については、副直医とし、内科系、外科系2人の医師と共に勤務する。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
オリエンテーション	<b>内科</b> (糖尿病・内分泌内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、腎臓内科、血液内科を各科1月以上) 磐田市立総合病院							<b>外科</b> 2月 磐田市立総合病院		<b>救急科</b> 2月 磐田市立総合病院	

※精神科は、菊川市立総合病院、福田西病院、服部病院又は磐田原病院で研修を行う。

※地域医療は、公立森町病院、森町家庭医療クリニック、菊川市家庭医療センター、御前崎市家庭医療センターで研修を行う。

### (2) 研修内容と到達目標

ア 研修内容

医師として初期研修の1つの目標として、厚生労働省の初期臨床研修の到達目標を是非とも身に付けるものとする。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>小児科</b> 2月 磐田病院	<b>救急</b> ( <b>麻酔</b> ) 1月 磐田病院	<b>精神科</b> 1月 協力病院	<b>地域医療</b> 1月 協力病院	<b>産婦人科</b> 2月 磐田病院	選択科目 6月 磐田市立総合病院 又は協力病院						

## 【必修科目】

### (内科)

主として病棟において5人～10人の患者を受け持ち、当院のカリキュラムに基づいて、内科疾患に関する診療技術と知識を学ぶ。

内科系の消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、腎臓内科、血液内科及び糖尿病内・分泌内科の7部門の研修を原則とする。尚、一般外来は内科研修中に概ね週0.5日程度とする。

### (救急部門)

救命救急センター専従期間は最低2ヶ月以上とし、専従期間以外の時間内救急担当(半日を1単位として1回/週)と副直(宿直3回/月、日直1回/月)を24ヶ月間行うことにより、2年間に合計3ヶ月の研修期間とする。

時間内の研修体制は救命救急センターにて、2名の救急専門医の指導の下に内科系・外科系の区別なく1～3次救急患者を1・2年目研修医が原則ペアで初期診療、トリアージ、帰宅・入院決定を行う。

時間外においては、内科系1名、外科系1名の宿直・当直医の指導の下、2名の初期研修医(原則1・2年目のペア)が初期診療、トリアージ、帰宅・入院決定を行う。

### (地域医療)

研修期間は1か月程度とし、地域の菊川家庭医療センター、森町家庭医療クリニック、御前崎市家庭医療センター、公立森町病院にて、地域医療の実践(入院診療、外来診療、救急診療)、在宅医療の業務を研修する。尚、一般外来は地域医療研修中に概ね2週、在宅医療は概ね週0.5日程度行う。

### (外科)

共通到達目標を達成すべく作成された外科研修プログラムに基づき、一般・腹部外科、血管外科、呼吸器外科を中心として、一般臨床科医として要求される外科疾患の診断・治療に必要な基本的な外科知識・技能・態度を修得する。また、研修では、5人～10人の患者を受け持ち、外科全般にわたる幅広い知識・技能・態度及び外来診療法を修得する。

尚、一般外来は外科研修中に概ね週0.5日程度とする。

以上の外科研修を通じて、インフォームド・コンセントの重要性を知り、外科的疾患の理解、諸検査の立案及び理解、手術適応及び手術内容の把握に努め、手術及び術前・術後管理を実践し、更に末期患者の管理・対応をも体得し、外科疾患を有する患者に対する全人的医療の修得を目指す。

### (小児科)

a 主に外来診療を中心に、重要性の高い疾患の診断及び治療ができるようにする。

- b 小児の採血、点滴などの一般的処置ができるようにする。
- c 痙攣発作や喘息などの一般的処置ができるようにする。
- d 乳児検診などを中心に、小児の正常な身体と精神の発達を理解する。
- e 指導医のもとで入院患者の治療に当たる。

尚、一般外来は小児科研修中に概ね週0.5日程度とする。

#### (産婦人科)

妊娠から分娩に至る過程や心理について患者を通して実践的に学び、さらにこれら妊娠、分娩に関連した症例を診察し、特有の疾患及び病態を理解する。また、産科関連の救急患者を診察し、その特徴や処置について理解する。

#### (精神科)

痴呆、うつ病、統合失調症の患者を通じ、精神疾患の捉え方の基本を身に付け、精神疾患に対する初期的対応と治療の実際を学ぶ。

#### (麻酔科)

麻酔科研修中に気道確保、静脈穿刺、呼吸管理を学ぶ。

#### (剖検)

すべての研修医に以下の研修を義務付ける。

- a 2年の研修期間のうちに最少1例の剖検を見学又は介助する。
- b 2年の研修期間のうち可能な限り受け持ち患者の剖検を経験し、病理担当医師の指導のもと、年間10回以上開催されているCPCにて症例呈示を行う。

### イ 到達目標

- a 卒後臨床研修到達目標達成度評価表（研修医用・指導医・医師以外の医療職種用）  
研修医評価表（Ⅰ～Ⅲ）（厚生労働省）
- b 臨床研修の目標の到達達成度判定表と週間スケジュール
- c 研修医自己評価チェックシート
- d 研修医からのプログラム評価

### (3) 教育に関する行事

#### ア オリエンテーション

1年次研修開始時に4週間にわたり下記の研修を義務とする。

- ① 病院長、プログラム指導責任者及び病院総務課からのオリエンテーション
  - ・ 当院の基本理念、基本方針及び病院の使命
  - ・ 臨床研修に対する姿勢

- ・医師の義務とチーム医療
  - ・医療倫理
  - ・医療安全について
  - ・公務員としての心得、地方公務員法の概要、サービス、勤務条件等
  - ・病院の経営及び財務の状況
- ② 下記部門の見学と研修
- a 医事課及び医療情報管理室他
- ・診療報酬請求の概要の理解
  - ・オーダーリングシステムの概要と理解
  - ・診療録管理の概要
  - ・診断書等の記載方法
  - ・紹介状の返書の取扱方法
  - ・感染症の届出方法の理解
  - ・特定疾患、身体障害者、公的扶助等の制度の理解
  - ・介護療養型医療施設、介護老人保健施設、介護老人福祉施設等の理解
  - ・医療相談業務
- b 臨床検査科
- ・静脈採血とテープ法による尿検査の実習
  - ・臨床検査の検体採取と管理
  - ・血液ガス分析と心電図記録の実習
    - ・血液培養を含む細菌検査検体採取
    - ・抗酸菌染色体等の実習と鏡検
- (病理部門)
- ・組織検査と細胞診検査の提出方法の修得
  - ・剖検依頼の際の注意事項の修得
  - ・病理組織標本作成手順の理解と材料の提出方法の修得
  - ・剖検の意義や依頼の方法の修得
  - ・可能な場合、包埋、薄切、染色作業の実習
- c 放射線技術科
- ・各種放射線検査、MRI、放射線治療の見学と理解
  - ・検査依頼法の修得
- d リハビリテーション技術科
- ・リハビリテーション概論
- ・見学
  - ・PT, OT, ST への依頼法の修得
- e 臨床工学科
- ・ME 機器中央管理の運用と機種理解

- ・各種血液洗浄化の依頼法の修得

f 薬剤部

- ・処方入力の修得
- ・院内服薬指導の理解
- ・血液製剤指示
- ・麻薬法制、薬剤副作用の検索
- ・治験審査

g 看護部

- ・看護部の組織、理念、目標
- ・看護師、看護補助員の業務の理解
- ・看護体制
- ・病棟管理

イ 全科カンファレンス等（全研修医の出席を義務とする）

- （ア）院内研修会 年12回
- （イ）院内講演会 不定期
- （ウ）CPC 年10回

ウ 研修医カンファレンス（全研修医の出席を義務とする）

- （ア）新患カンファレンス（3回/週）
- （イ）救急カンファレンス（3回/週）
- （ウ）研修医向けレクチャー（2～3回/月）
- （エ）身体診察・臨床推論レクチャー（1回/週）
- （オ）読影カンファレンス（1回/2ヶ月）
- （カ）個別面接（2回/年）

研修の進捗状況の確認、メンタルヘルスのチェック、進路相談等を行なう。

エ 各科カンファレンス等

各科及び各科関連カンファレンス等は、別紙のとおりであり、研修科のカンファレンス等には出席を義務付ける。

オ 救命処置講習会

BLS, ICLS, JMECC 等の救命処置講習会の出席を義務付ける。

(4) 指導体制

- ア 研修医1人に対して指導医1人の教育体制を原則とする。
- イ 研修医は、関係する専門医の指導を随時受けることができる。
- ウ 指導医は、研修医に教育上必要な数の入院患者を受け持たせる。
- エ 研修医を受け入れる科の職員は、研修医の教育に積極的に協力する義務を負う。
- オ 研修医の所属する科以外の科においても共通到達目標を達成するために必要な検査、処置、治療手技が予定されている場合、配属科科长の了解を得て研修医にそれらを経験

させるよう努力する。

カ 副直、救急では2年目研修医が直接指導に当たる（屋根瓦方式）。

## 8 研修医の評価

- (1) 各診療科の研修修了時に、研修医が臨床研修到達目標達成度自己評価表（別添）に基づき自己評価を行いプログラム責任者に提出する。
- (2) 各診療科の研修修了時に、各科指導責任者が EPOC 内の研修医評価表（Ⅰ～Ⅲ）に基づき研修医の評価を行いプログラム責任者に提出する。
- (3) 各診療科の研修修了時に、各科看護師長が EPOC 内の研修医評価表（Ⅰ～Ⅲ）に基づき研修医の評価を行いプログラム責任者に提出する。
- (4) 年2～3回行われる研修医個別面談時に、上記の評価表に基づきプログラム責任者が各研修医に対して形成的評価を行う。
- (5) 初期研修2年修了時に上記評価表に基づきプログラム責任者が総合的評価を行い、その結果について臨床研修委員会で報告・検討し各研修医の総括的評価を行う。

## 9 研修プログラム、指導医の評価

- (1) 各診療科の研修修了時に、研修医が研修医による指導医の評価（EPOC 内の研修医評価表（Ⅰ～Ⅲ））に基づき指導医・研修科の評価を行いプログラム責任者に提出する。
- (2) 各診療科に対する評価をプログラム責任者がチェックし、早急な改善が必要な事項については翌月の臨床研修委員会に報告し、各科に改善の申し出を行う。
- (3) 初期研修2年修了時に、プログラム責任者が上記評価の結果を診療科ごとに取りまとめレポートを作成し各科に結果をフィードバックし、指導方法・環境の改善を促す。

## 10 プログラム修了の認定及び証書の交付

臨床研修管理委員会は、研修医の自己申告及び各科指導責任者の評価（EPOC 内の研修医評価表（Ⅰ～Ⅲ））及び各病院の研修委員の意見により、到達目標が達成されたことを確認し、認定する。これに基づき病院長は、研修医にこのプログラムを修了したことを記した「修了証書」を授与する。

## 11 プログラム修了後の進路

2年間の研修修了後の進路は、引き続き当院の志望科で3年目の後期研修プログラムを選択し、次いで正規医師として採用されるか出身大学又は関連大学（名古屋大学、浜松医科大学、名古屋市立大学、滋賀医科大学など）に勤務するなどの進路がある。具体的には、病院長、研修指導責任者、指導医の助言及び協議のもとに決定する。また、次の研修施設に認定されているため、引き続き採用された場合には、認定医、専門医の資格取得が可能である。

日本内科学会認定医制度教育関連病院  
日本リウマチ学会教育施設  
日本血液学会認定医研修施設  
日本透析医学会認定医制度認定施設  
日本神経学会専門医制度教育関連施設  
日本呼吸器学会認定施設  
日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設  
日本消化器病学会認定施設  
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設  
日本外科学会認定医制度修練施設  
日本外科学会専門医制度修練施設  
日本乳癌学会研修施設  
日本消化器外科学会専門医修練施設  
日本肝臓学会関連施設  
日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設 B  
日本がん治療認定医機構認定研修施設  
日本胸部外科学会認定医認定制度関連施設  
日本呼吸器外科学会専門医制度関連施設  
呼吸器外科専門医認定機構関連施設  
日本整形外科学会専門医制度研修施設  
日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練施設（A項）  
日本麻酔学会麻酔指導病院  
日本ペインクリニック学会指定研修施設  
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設  
日本泌尿器科学会専門医教育施設  
日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設  
日本皮膚科学会認定専門医研修施設  
日本眼科学会専門医制度研修施設  
日本病理学会登録施設  
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関  
日本アレルギー学会認定教育施設  
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設  
日本周産期新生児医学会周産期専門医暫定研修施設

日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院

日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設

救急科専門医指定施設

小児科専門医研修施設

日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設

日本感染症学会認定研修施設

日本放射線腫瘍学会認定協力施設

## 1 2 研修医の身分

(1) 常勤の会計年度任用職員とする。

(2) 給与等（令和2年4月現在）

ア 給 料

1年目 344,800 円

2年目 353,500 円

イ 賞 与

年間2.6月

ウ その他の手当

地域手当、時間外勤務手当、通勤手当、住居手当、扶養手当、宿日直手等

(3) 研修医の勤務時間など

ア 勤務時間 午前8時15分から午後5時まで（勤務時間外に研修を行う場合がある。）

イ 休 暇 休日は、土曜日、日曜日、法令に定める休日及び年末年始とする。

ウ 当 直 副直医とし、内科系、外科系2人の医師と共に勤務する。

エ 特別休暇 産前・産後休暇など

産前休暇：8週間（多胎妊娠の場合は10週間）

産後休暇：8週間

(4) 院内保育園 有（保育時間7：45から19：00）

(5) 宿 舎 有（8戸）

病院敷地内、徒歩1分、2LDK、オール電化、家賃18,000円、築12年、駐車場あり。その他45,000円を上限に家賃補助制度あり。

(6) 研修医室 有

(7) 社会保険・労働保険

健康保険、厚生年金、労働者災害補償保険、雇用保険に加入

(8) 健康管理 健康診断を年2回実施

(9) 医師賠償責任保険

病院で加入するため、研修医個人で加入する必要はない。

(10) 学会等への参加の取扱い

2年次の研修医については、年間3万円を限度として認める。

※ 事前に参加する学会等の内容がわかる書類を病院総務課へ提出し、事後に復命書を作成し、指導医、病院長等へ報告する。

(11) 禁止事項 研修医の「アルバイト」は禁止する。

1.3 研修医の応募手続

(1) 応募先

〒 438-8550 静岡県磐田市大久保512番地3

磐田市立総合病院 **教育研修室**

電話 0538-38-5000 FAX 0538-38-5050

e-mail: [byoin-kanri@city.iwatalg.jp](mailto:byoin-kanri@city.iwatalg.jp)

URL <http://www.hospital.iwata.shizuoka.jp/>

(2) 出願手続

出願締切 マッチングシステムによる場合 試験日の1週間前まで  
マッチングシステム以外の募集については後日掲載

出願書類 履歴書（メールアドレス必須記入）、卒業（見込）証明書、成績証明書、健康診断書

(3) 研修開始日 令和3年4月1日

(4) 選考方法

書類審査、面接 ※社会情勢により面接はWebで行う場合があります。

面接日 マッチングシステムによる場合

令和2年8月3日、5日、7日、19日、21日

マッチングシステム以外の募集については後日掲載

別紙1

研修管理委員会

- 委員長 寺田 雅彦 (プログラム指導責任者、副病院長)
- 副委員長 妹川 史朗 (第1医療部部長)
- 委員 鈴木 昌八 (事業管理者兼病院長)
- 委員 飛田 規 (副病院長)
- 委員 古谷 隆一 (副病院長)
- 委員 高橋 浩 (副病院長)
- 委員 谷岡 書彦 (副病院長)
- 委員 遠藤 彰 (副病院長)
- 委員 坂口 孝宣 (副病院長)
- 委員 井下田 覚 (副病院長兼事務部長)
- 委員 徳永 直樹 (産婦人科科長)
- 委員 藤本 雄大 (歯科口腔外科科長)
- 委員 間遠 文貴 (救急科科長)
- 委員 正木 銀三 (薬剤部長)
- 委員 大石 由美子 (副看護長)
- 委員 若尾 和孝 (病院総務課人事管理グループ長)
- 委員 西藤 文孝 (病院総務課主任)
- 委員 二見 肇 (菊川市立総合病院副病院長)
- 委員 中村 昌樹 (公立森町病院院長)
- 委員 綱分 信二 (菊川家庭医療センター)
- 委員 鳴本 敬一郎 (森町家庭医療クリニック)
- 委員 伊藤 基 (磐田市医師会理事) ※外部委員
- 委員 1年目研修医
- 委員 2年目研修医

別紙 2

1 各科カンファレンス

1	脳神経外科症例検討会	2	内科症例検討会
3	脳神経外科・リハビリテーション科合同カンファレンス	4	消化器科カンファレンス
5	消化器カンファレンス	6	消化器科・外科・病理科カンファレンス
7	呼吸器カンファレンス	8	外科カンファレンス
9	病診連携カンファレンス	10	神経内科症例検討会
11	産婦人科院内症例検討会	12	呼吸器・循環器カンファレンス
13	癌カンファレンス	14	院内循環器カンファレンス
15	周産期カンファレンス	16	CPC
17	放射線科カンファレンス	18	症例検討会（内科・腎内科）
19	呼吸器研修会	20	小児科勉強会
21	病棟カンファレンス（泌尿器科）	22	リハビリテーションカンファレンス
23	外来カンファレンス（泌尿器科）	24	眼科症例検討会
25	N S T 勉強会	26	救急事例検討会

2 各科関連カンファレンス

1	中遠脳神経外科カンファレンス	2	静岡県リウマチ治療研究会
3	静岡県脳神経外科集談会	4	静岡県血液・免疫疾患治療研究会
5	静岡県脳神経外科懇話会	6	静岡県リウマチ懇話会
7	静岡病理会	8	静岡県臨床免疫懇話会
9	東海病理会	10	磐田消化器検討会
11	産医会（地区産婦人科医会）	12	3院検討会（消化器科）
13	浜松医科大学産婦人科医局リサーチカンファレンス	14	中遠消化器症例検討会
15	浜松神経画像カンファレンス	16	静岡県外科疾患研究会
17	浜松血管造影勉強会	18	静岡県胆膵研究会
19	磐田心肺	20	静岡血管外科懇話会
21	静岡腎セミナー	22	静岡県外科医会県談会
23	西部血液浄化療法研究会	24	静岡県総合画像診断研究会
25	静岡県西部麻酔・集中治療懇話会	26	静岡びまん性肺疾患研究会
27	中東遠麻酔科症例検討会	28	浜松胆膵疾患勉強会
29	中東遠泌尿器科カンファレンス	30	静岡皮膚病カンファレンス
31	磐田心肺カンファレンス	32	大学関連病院皮膚科カンファレンス
33	中東呼吸器カンファレンス	34	磐田皮膚科集団
35	西部胸部疾患懇話会	36	磐田小児症例検討会

37	静岡呼吸器感染症研究会	38	磐田小児漢方研究会
39	コメディカルとの合同検討会	40	中東循環器カンファレンス
41	磐田袋井労災循環器カンファレンス	42	浜松循環器カンファレンス